

令和3年度A日程  
学力検査問題

①

国語

注意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて7ページで、問題は□一から□四まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に  
**志願先高等学校名と受検番号**を書きなさい。
- 5 答えはすべて**解答用紙の指定された欄**に書きなさい。

志願先高等学校名

受検番号

高等学校

□ 次の(一)～(六)の問いに答えなさい。

(一) 次の1・2の文の——線部の漢字の読みがなを、それぞれ書け。

1 早起きを励行する。

2 歓迎会を催す。

(二) 次の1・2の文の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書け。

1 ツウカイな冒険小説を楽しむ。

2 荷物をアズける。

(三) 次の行書で書かれた漢字を、楷書で書いたときの総画数を**数字**で書け。

微

(四) 次のア～エそれぞれの熟語の組み合わせのうち、二つの熟語の関係が類義語となっているものを一つ選び、その記号を書け。

ア 親切 — 厚意

イ 天然 — 人工

ウ 難解 — 平易

エ 保守 — 革新

(五) 次の詩を読み、後の1～3の問いに答えよ。

著作権保護のため掲載していません。

1 詩の中の——線部1の「陽がかげると不思議がつてきき耳をたて」を単語に区切ったとき、助詞はいくつあるか。**数字**で書け。

2 詩の中の——線部2の「なり」の活用形を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 未然形      イ 連用形

ウ 終止形      エ 命令形

3 詩の中で用いられている表現についての説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 樹木の生命感あふれる様子を、擬人法を用いて表現している。

イ 嫩葉のみずみずしさを、擬態語を用いて効果的に描いている。

ウ 枝々が風に揺れる涼やかなさまを、反復を用いて印象づけている。

エ 葉っぱの成長の力強さを、五音と七音の言葉を重ねて強調している。

- (六) のぞみさんが所属する新聞部では、体育祭の報告をする新聞を発行することになり、のぞみさんは「鳴子踊り」の記事を担当することになった。次は、その記事の【原稿】と、【原稿】についての【部員たちの発言】である。これらを読んで、後の1～3の問いに答えよ。

【原稿】

## 心をひとつに鳴子踊り

本校恒例の鳴子踊りが、今年も披露された。皆で練習を重ね、全力を出し切った踊りを、各組のリーダーが振り返ってくれた。

Ⅰ

午前の部の最後は、本校の伝統的な取り組みの一つ、鳴子踊りだった。三年生は、夏休みの間に振り付けを創作する。そして、二期が始まると同時に下級生に教える。約二週間、皆で練習を重ねた。体育祭ではその成果を発揮しました。保護者や地域の方々からは、「踊りがそろっていて美しかった」「どちらが優れているか決められないほど、どちらの組も上手だった」と好評で、「毎年、楽しみにしているので、ぜひ続けてほしい」といううれしい言葉もいただいた。赤組と青組のリーダーが、鳴子踊りを振り返り、思いを文章にまとめてくれた。

Ⅱ

赤組リーダー  
小林さん

私たち赤組のテーマは「炎」でした。赤といえば、燃えさかる炎。炎のもつ美しさと力強さを伝えられるよう、振り付けに工夫を凝らしました。曲の中ほどで、全員が中央に集まり、一瞬で全方向へ広がるところが、最大の見せ場であり、特に練習を重ねてきた部分でした。皆が団結して、納得のいく踊りを披露できたことが、一番の思い出です。

Ⅲ

青組リーダー  
中山さん

私たち青組は、なかなか意見がまとまらず、限られた練習期間の中で、踊りを完成できるのか、とても心配でした。だから、弱音を吐かずについてきてくれた下級生には、とても感謝しています。ありがとうございます。青組のテーマであった「海」。さまざまな川が合流して、大きな海となるように、一人一人が力を合わせて、最高の踊りを見せることができました。

【部員たちの発言】

- A Ⅱの文章は、テーマのイメージを振り付けにどう生かしたかが書かれているので、振り付けの工夫がわかりやすいね。
- B Ⅲの文章は、練習での苦勞を乗り越えて力を合わせることができた様子を、テーマのイメージと重ねて、よく書けているよ。
- C Ⅲの文章には練習での苦勞が書かれているから、下級生の感謝の言葉が、より感動的に読み手に伝わるよ。
- D どちらの組も、本番では皆の踊りがひとつにまとまったことがⅡとⅢの文章からわかるね。それが見出しにも生かされているよ。

- 1 のぞみさんは、【原稿】中のⅠの——線部の「どちらが優れているか決められない」を、簡潔に慣用句で表すことにした。その慣用句として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 右に出る者がいない

イ 背に腹はかえられぬ

ウ 類は友を呼ぶ

エ 甲乙つけがたい

- 2 のぞみさんは、【原稿】中のⅠの部分では常体に敬体が交じっていると気づき、直すことにした。Ⅰの部分から、敬体で書かれた一文を探し、常体に直して一文全部を書け。
- 3 【部員たちの発言】中のA～Dから、【原稿】に基づいた発言となっていないもの一つを選び、その記号を書け。

二 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の□に当てはまる言葉として最も適切なものを、文章中から漢字二字でそのまま抜き出して書け。

(二) 文章中の——線部1に「自律と相互依存、どちらも不可欠な能力であって、そのバランスが鍵と言えるでしょう」とあるが、筆者はここでどういうことを述べようとしているか。その内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 自律することが多文化社会では求められているが、自律ばかりが重視されては人間関係をうまく結べないので、当面は自律よりも相互依存を重視するべきだということ。

イ 自律と相互依存を両立させることがこれからの社会では大切だが、実際には自律がまったく顧みられていないので、相互依存を重視するのは慎んだほうがよいということ。

ウ 自律と相互依存は対立するもののように感じられるが、国際社会ではどちらも重視されているので、日本の社会でも均衡を保てるようになることが大切だということ。

エ 自律を重視しすぎると相互依存の否定につながるが、相互依存は人間社会を支える土台となるものなので、自律と相互依存のつり合いを取ることが重要であるということ。

(三) 文章中の——線部2に「彼女の発言に、私は軽い感動を覚えたものです」とあるが、その理由を筆者はどのように述べているか。その内容を、「彼女の発言によって」で書き始め、「能力」の言葉を必ず使って、六十字以上八十字以内で書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

(四) この文章の内容と構成を説明したものととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 初めに二つの社会の価値観を例にして多文化社会の問題点を指摘し、次に日本の社会の基盤となる考え方の意味をエピソードを交えながら説明し、最後に日本の社会が多文化社会の価値観の影響を受けることのないように具体的な方策を提案している。

イ 初めに二つの社会の価値観に触れて人間関係を構築することの難しさを述べ、次に多文化社会と日本の社会の考え方の良さについてそれぞれエピソードを交えて説明し、最後にこれからの国際社会での望ましい人間関係のあり方を提案している。

ウ 初めに二つの社会の価値観を対比して現代日本の課題を提示し、次に日本の社会の考え方がもつ良さについてエピソードを交えて語り、最後に比喩を用いながら二つの価値観の関係性を説明して多文化社会の中での日本人らしいあり方を提案している。

エ 初めに二つの社会の価値観を比較してこれからの国際社会のあるべき方向を示し、次に日本の社会に変化が必要な理由についてエピソードを交えながら語り、最後に日本人が多文化社会の中で生きていくために留意するべきことを提案している。

三 次の文章は、哲学者の岡本裕一朗おかもとゆういちろうさんと広告業に携わる深谷信介ふかやしんすけさんの二人による対談の一部である。この文章を読み、後の(一)・(二)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の——線部1に「情報の上書きの高速化と、人間の記憶の短命化は、表裏の関係にあるんですね」とあるが、深谷さんは、人々の記憶が短命化していることについて、ここでどういうことを述べているか。その内容を、次の**条件1・2**にしたがって書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

**条件1** 全体を六十字以上八十字以内にまとめること。

**条件2** 解答は「今の社会は」で書き始めること。

(二) 文章中の——線部2に「一冊のテキストをどう読むか」とあるが、岡本さんは、どういう読み方を肯定的に捉えているか。また、そのような岡本さんの考えについて、あなたはどのように考えるか。次の**条件1・3**にしたがって書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

**条件1** 全体を八十字以上百字以内にまとめること。

**条件2** 最初に、岡本さんの考えを説明し、次に、それに対する自分の考えを書くこと。

**条件3** 自分の考えについては、岡本さんが述べている内容に触れながら、自分がそう考える理由を明らかにして書くこと。

四 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

ある修行者、行き暮れて、わづかなるあやししのしづの屋やに、一夜宿を借りける。主情あるじなげ深き者に  
て、「結縁けちえんに」とて貸アしける。ころは冬ざれの霜夜なれば、手足てあしこごえてかがまりければ、わが息を  
吹きかけてあたためけり。ややあつて後、熱き飯を食イふとて、息をもつて吹きさましければ、主こ此  
由ゆを見て、「怪ウしき法師のしわざかな。つめたき物をば熱き息をいだしてあたたため、熱き物はひや  
かなる息出いしてさまし侍はえるぞや。いかさまにもただ人のしわざとも見えす。天魔の現まじきたれるや」  
とおろかにおそれて、暁あけがたにおよびて追ヒひ出しぬ。

そのごとく、至いたつて心つたなきものは、わが身に具足こぞくしたることをだにもわきまへず、ややもす  
れば惑まどひがちなり。これほどの事をだにわきまへぬやからは、能よき事を見てはかへつて悪あししとや  
思おもふべき。かねてこれを心得よ。これは、うち聞けば、おろかなるやうなれども、人の世にあつて、  
道に迷へる事、かの主が、人の息の熱きとぬるきと、わきまへかねたるにことならざるものなり。

(『伊曾保物語』による)

(注) わづかなるあやししのしづの屋に…小さな粗末なあばら屋に。

「結縁に」とて…「善行をして、成仏じやうぶつの縁を結ぶために」と言つて。

怪しき法師のしわざかな…奇妙な僧の行為であることよ。 いかさまにも…どうしても。

天魔…悪魔。 悪しし…悪い。 かねて…前もつて。

(一) 文章中の~~~~線部の「わきまへぬやからは」を現代仮名遣いに直して、~~~~線部全部をひ  
らがなで書け。

(二) 文章中の====線部ア～エの言葉のうち、行為をする者が他の三つとは異なるものを一つ選び、  
その記号を書け。

(三) 文章中の——線部に「わが身に具足したること」とあるが、この文章の第一段落で述べられ  
ている話における「具足したること」とは何か。文章中から一字でそのまま抜き出して書け。

(四) この文章で述べられている内容の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その  
記号を書け。

ア 主が修行者の行為を見て悪魔だと見破ったのは、日頃から質素な生活をしてきた誠実さ  
のためであるが、人が世の中にあつて道に迷うのも、この主の誠実さと本質は同じである  
と述べている。

イ 主が修行者の行為を見て悪魔だと決めつけたのは、善行をして自分だけが成仏の縁を結  
ぼうとした身勝手さによるが、人が世の中にあつて道に迷うのも、この主の身勝手さと本  
質は同じであると述べている。

ウ 主が修行者の行為を見て悪魔だと恐れたのは、自分の体のことについてさへ理解してい  
なかつた愚かさのためであるが、人が世の中にあつて道に迷うのも、この主の愚かさと同  
質は同じであると述べている。

エ 主が修行者の行為を見て悪魔だと間違えたのは、よいことを見ても悪く考えてしまうよ  
うな臆病さによるが、人が世の中にあつて道に迷うのも、この主の臆病さと本質は同じで  
あると述べている。